

保健 2年 指導内容表【生涯を通じる健康】

別資料2-3

中単元	小単元	no.	理解項目	教科書	*no.	触れる内容	教科書	*no.	配慮事項	授業
ア	(ア) 思春期と健康	1	思春期における心身の発達や健康課題について特に性的成熟に伴い、心理面、行動面が変化すること	p65 l3~13					発達の段階を踏まえる	1
		2	これらの変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を尊重する態度が必要であること	p65 l14~16					*1 学校全体で共通理解を図る	
		3	性に関する情報等への適切な対処が必要であること	p67 l2~20					保護者の理解を得る	
	(イ) 結婚生活と健康	4	健康な結婚生活について（心身の発達や健康状態など保健の立場から）	p68 l10~12 P69					男女それぞれの生殖にかかわる機能については、必要に応じて関連付ける程度 P64	2
		5	受精、妊娠、出産に伴う健康課題	p71 l8~19						3
		6	家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響など	p72 l2~15 p73 l18~24						
		7	結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康への責任感、良好な人間関係や家族や周りからの支援、及び母子への健康診査の利用などの保健・医療サービスの活用が必要なこと	p71 l20~24						
	(ウ) 加齢と健康	8	加齢に伴う心身の変化について（形態面及び機能面から）	p74 l1~14	*12 機能障害及び社会復帰を図るためのリハビリテーション	p77 l4~8	*12	中高年の健康状態、生活状況やこれらに対する種々の施策が行われていることを取り上げる p77 l9~19	4	
		9	中高年期を健康に過ごすためには、若い時から、適正な体重や血圧などに関心をもち、適切な健康習慣を保つこと	p74 l15~ p75 l9					5	
		10	定期的に健康診断を受けることなど自己管理をすることが重要であること	p75 l10~13						
		11	生きがいをもつこと、家族や親しい友人との良好な人間関係を保つこと、地域との交流をもつことなどが重要であること	p75 l14~22						
		12	高齢社会の到来に対応して、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であること	p76 l12~p77 l2						
イ	(ア) 我が国の保健・医療制度	13	我が国には、人々の健康を守るための保健・医療制度が存在し、	p80 l4~16 P82 l7~15	*13 介護保険、臓器移植、献血の制度があること				6	
		14	行政及びその他の機関などから保健に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていること	p81 l2~10 P82 l2~6						
	(イ) 地域の保健・医療機関の活用	15	検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所、保健センター、病院や診療所などの医療機関及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことが必要であること	p81 l11~19 p83 l11~19	*18 副作用については、予期できるものと、予期することが困難なものがあること	p85 l1~11			7	
		16	医薬品には、医療用医薬品と一般用医薬品があること	p84 l2~8						8
		17	承認制度により有効性や安全性が審査されていること、及び販売に規制があること	p85 l12~21						
18	疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で使用方法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であること	p84 l16~ p85 l5								
ウ	様々な保健活動や対策	19	日本や世界では、健康の保持増進を図るために、健康課題に対応して各種の保健活動や対策が行われていること	p86	*19 日本赤十字社などの民間機関の諸活動や世界保健機関などの国際機関の諸活動 ヘルスプロモーションの考え方に基づくもの 活動や対策を充実するには、一人一人が生涯の各段階でそれらを理解し支えること そのことが人々の健康につながる	p86 l18~ p87 l6 p86l10 ~l16 p87 l8 ~ l21		9		